蘇台覧古

李白

旧苑荒台楊柳新たなり
菱歌清唱春に勝えず
只今惟西江の月のみ有り
曽て照らす呉王宮裏の人

【作者】李　白(七〇一～七六二年)盛唐の詩人、杜甫(とほ)と並び称される。蜀(しょく)の錦州彰明県(きんしゅうしょうめいけん)　青蓮郷(せいれんきょう)の人で青蓮居士(せいれんこじ)と号した。幼にして俊才、剣術を習い任侠の徒　と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗(げんそう)皇帝の側近にあり、後再び各　地を転転とし多くの詩をのこす。安禄山(あんろくざん)の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。六十二歳、　病のために没す。

【語釈】＊蘇　臺…呉王闔廬(こうりょ)と夫差(ふさ)が姑蘇山に建てた宮殿のあと。今の江蘇省蘇州市西南　霊岩山寺がその跡とされる。

＊覧　古…懐古に同じ　　＊菱　歌…菱(ひし)の実採りの民歌　　＊宮裏人…呉王夫差の宮中にあった美女の西施(せいし)　夫差は越王から奪った　西施の美しさに溺れて政治をかえりみず、亡国を招いた。

【通釈】呉王の姑蘇臺は古びた庭園や荒れた高台になってしまったが、そのなかで楊柳だけが今年も新しい芽をふいた。　水面(みずも)をわたる(ひしと)りの乙女らの清らかな声を聞けば、やるせない春愁(しゅんしゅう)に　たえられない。　春を謳歌した呉王の宮殿(蘇台)には、只今は西に流れる川を月が照らしているばかりである。曽(かつ)て　は呉王の宮殿の美女(西施)の姿を照らしていたものだが・・・。